

訪問記

大内山の松のみどりと、外濠に
浮く水鳥を眺める、ここ大手町
は雨でしっとりと落ち着いて居ま
す。

お約束の時間に少し遅れたかなと、時計を

気にしながら古びた婦
人少年局の玄関を入る
と、あたりの静かさ
に、勤務の真最中であ
る事を知らされました。
古さを思わせる様
な、一寸うす暗い廊
下を通して、二階の深
まった先生のお部屋に
お伺い致しますと、先
生はすぐさま出て来ら
れ、私達は、その先生
のお部屋で、暖かいストーブをはさんでお話
しを伺う事が出来ました。

劈頭、先生は、今回の訪問テーマとは別
に、今日の学生の教養についての所感を述べ
られました。先生としては、それが一番の
関心事であったのでありましょう。



社会福祉学を学ぶ学生に何を望むか

先生は最近、女子大生の催したものが、三
段坂きの写真入りで新聞にのせられた事に批
判の目を向けられて、「最も教養あるはずの学
生が、余興とは云え、何の慮する処もなく、
まるで、街の兄ちゃんがする様な扮装をし

しっかりした基礎を

身につけよ

労働省婦人労働課長

谷野 せつ

(二三回生)

て、観衆をアツと云わせた。思いつきは奇抜
でしょうが、私の常識からすると、卒業生の
一人として、何とも、恥かしい事の様に思わ
れました。新聞が、興味的に取り上げた、取
り上げないの問題ではなく、もっと、根本的
な教養に対する学生の批判として、考えて自

重すべきではないでしょうか。私の考え方が
古いのかも知れませんが私は、新聞を見て、
悲しく思っていたところですよ。」と云われ
た。私達は、唯、恐縮するより他仕方ありませ
んでした。たとえそれは、社会福祉学科のし
た事でないにしても、学生個々人の

問題として、本当
に自重しなければ
ならない事と思い
ます。

さて、訪問のテ
ーマに入って、社
会福祉を学ぶ学生
に対する御希望を
御伺い致しますた
が、これについて

は、先ず先生は、私達に、現在の教科構造
や、教科過程、教授陣について、御質問にな
られました。そして、私達の、これらのカリ
キュラムについての説明を聴かれた後、先生
は、次の様な意見を述べて下さいました。

「今日の学生のレベルが低下してゐるとよく

云われますが、社会福祉について現在の大学制では、専門的に深く掘り下げて学ぶと云う事は無理であって、むしろ旧制の高等学校の様に、基礎的なものを一般教養としてしっかり身につけるべきではないでしょうか。色々、数多くの専門学科をあさるよりも、社会福祉の基礎となる学科について、固めて置く方が社会に出てからの、適応も広

いし、基礎が出来ていれば、専門を求める事も容易でしょう。専門はむしろ、社会に出てから、実務を通して、学びながら深く掘り下げるべきではないでしょうか。

私が社会に出て、一番つらく思いましたのは、基礎学科でさえ、大学中によく学び得ていなかったと云う事でした。社会福祉については、社会に於ける人間関係、経済生活の上に理解されるものであ

訪問記

以上、法律、社会、経済、統計学等は、必須、且つ重要なものとなる事は、必然のことで、又、社会福祉は、一国一社会のみに止まる問題ではなく、国際的であって見れば、外国

との関連のためにも、語学も亦大切な教科です。

この様に、大学時代は、基礎学を、みっちり学び、専門のテクニクは、卒業後、それれ専門の職場で、最初の段階から学ぶ事です。これは、私の経験からも云えるし、又実際、その覚悟がなければならぬし、又それ



で良いのだと思います。

広い基礎学問と専門の実務と、同時に身に付けることは無理なことであり、それに又、早くからあわてて、専門家になる必要もないでしょう。学生時代は、広く各方面に適応し

得る能力を、養う積りで基礎を固めて下さいます。

次に、私達は、社会福祉と云う学問の進むべき方向について、お伺い致しました。

「私(先生)が学生時代には、社会福祉と云えば、一種の正義感を伴う、意識的なものでありました。しかし、それから社会に対する考え方は、進んでいますので、その様な意識は、あまり必要な事ではなく、社会福祉の対象が、全人類、全社会、各個人個人であると認識されている以上、極く、ナチュラリに、社会や人間の福祉を、実践して行くと考えてよいのではないのでしょうか。卒業後、社会福祉のために働かれる場合でも、家庭の主婦として、地域社会に生活される場合でも、女子大の三大教育方針は、そのまま社会福祉にふさわしい教育の方針であると思います。殊に、共同奉仕の気持は大切ですね。」

ここまでお話し下さった時、課長会議が始まる旨、呼びに來られましたので、年末の忙がしい時、私達の為に、貴重なお時間をさいて、有意義な、御意見をお聴かせ下さった事を感謝してお暇致しました。

(訪問者は本学科三年生)